

総合型地域スポーツクラ 公式メールマガジ

このメールマガジンはスポーツ振興くじ助成金を受けて配信しています。 スポーツくじについてはこちらから

[スポーツくじ理念広報サイト[GROWING]] https://www.toto-growing.com/

スポーツくL" winner coco Big







特別企画**★自転車プログラムを実施しているクラブ**

NPO法人滝尾百穴クラブ(大分県)

特別企画**★クラブ間交流を行っているクラブ**

NPO法人しんじ湖スポーツクラブ(島根県)

http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/kurabuikusei/MailMagazine/R5/MM173 shinjiko.PDF

連載★学校運動部活動と連携するクラブ

NPO法人おぐにスポーツクラブYui(山形県)

http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/kurabuikusei/MailMagazine/R5/MM173 oguni-yui.PDF

助成金情報 ▷▷▷ 謹細

お知らせ ▷▷▷詳細

バックナンバー ▷▷▷<u>詳細</u>

全体版 ▷▷▷≌







特別企画

★自転車活用プログラムを実施しているクラブ★

NPO法人満尾百穴クラブ

大分県大分市

国土交通省が令和3(2021)年5月に「第2次自転車活用推進計画」を策定しました。

第2次自転車活用推進計画では目標の1つとして、日常生活における自転車利用も含めた生涯スポーツの 普及奨励により、心身の健全な発達や、生きがいのある豊かな生活の実現、国民の健康寿命の延伸等を目 指すことを掲げています。

そこで今回は、自転車種目に取り組むクラブについて紹介します。

【国土交通省HP 自転車活用推進計画】

https://www.mlit.go.jp/road/bicycleuse/good-cycle-japan/jitensha_katsuyo/

クラブ概要

会員数230名、スポーツ教室9種目、文化教室2種目を実施

NPO法人滝尾百穴クラブは、地域住民の健康増進と青少年の健全育成、住民相互のコミュニケー ションの活性化を目的として、平成26(2014)年10月27日に設立されました。

現在、事務局の体制は田島寛信理事長を含めた計5名の役員と事務局職員2名で組織しており、 そのほかに指導者15名、助手15名が所属しています。

会員数は現在230名で、スポーツ教室9種目と文化教室2種目を実施しています。特にバドミント ン、太極拳、陸上競技、絵画は会員数が多く、クラブの主要種目になっています。

ここ数年は新型コロナウイルス感染症の影響を受けましたが、自前の施設と屋外施設利用のお かげで会員数の大きな減少は免れました。特に3年前からファミリーポタリング(家族で楽しむお 散歩サイクリング) をイベントに採用しました。現在ではこのファミリーポタリングが滝尾百穴ク ラブの特色の一つになっています。



コロナ禍で採用した自転車活用プログラム

安全なサイクリングコースで、家族一緒に楽しむスポーツ

コロナ渦で室内競技の会員増加が望めず、かつ学校や公共の屋内施設も使用できないことが多 くなりました。そこで、屋内施設利用の拡大を諦め、屋外スポーツでの活動機会を増やすことを 考えました。思いついたのが自転車を活用したプログラムです。

大分県教育委員会では令和3(2021)年度より、総合型地域スポーツクラブを対象に、「シンボリッ クプログラム創出事業|の募集をスタートしました。総合型クラブが市町村と連携し、地域の特性 や資源を生かした特徴的なスポーツプログラムを創出することを目的とした事業です。自転車を 活用したプログラムを検討していた私たちのクラブでは、この事業に応募し、補助金の支給が決 まりました。

大分市は「バイシクルフレンドリータウン〜自転車が似合うまち〜の創造」を基本方針に、自転 車レーンや自転車誘導サイン、駐輪環境づくり、シェアサイクルポートなど安全で快適な自転車 環境づくりに力を入れています。自転車を活用したプログラムをスタートさせるのに、十分な条 件がそろっていました。

ただ、一般的に知られている自転車活用プログラムは、ただ早く、長く走るのが目的に見えます。 それでは当クラブの目的にそぐわないと感じました。安全なサイクリングコースで、家族一緒に 楽しむスポーツとしてのイベントを実現したいと考え、イベントの主な内容を以下のように設定 しました。

〈事業名〉

「ファミリーポタリング」

〈目的〉

- ①自転車に乗って健康になりましょう。
- ②家族のふれあいを増やしましょう。
- ③大分県内の自然と観光を楽しみましょう。
- 4健康になり災害のボランティア活動ができる人材を育てましょう。

〈参加人数〉

イベント1回につき40人前後

〈参加スタッフ〉

事務局職員2人、自転車補助スタッフ7人前後

〈その他〉

イベント開催地までの移動費、自転車レンタル料、保険料等は、基本的に補助金で賄います。 足りない部分に関してはクラブが負担しています(現地での飲食代金は個人負担)。



イベントを実施する前に、参加者を対象に自転車についての安全説明会を実施しました。説明会 ではサイクリングの基本的な知識からヘルメット着用の重要性、保険についてなどをわかりやすく 解説しました。また、スタッフによる事前の現地調査を必ず実施し、ミーティングを十分に行いま した。計画と実行にずれがないかを確認し、トラブルを最小限に抑える努力はとても重要です。



第1回目のファミリーポタリングin耶馬渓

大自然の中を家族そろって 自転車で走り抜ける爽快感

県内の観光スポットと連携して地域振興に貢献

ファミリーポタリングのイベントは令和3(2021)年のスタート以来、年に1~2回実施していま す。参加者に好評だったイベントを2つ紹介します。

メイプル耶馬サイクリングロード(中津市)

メイプル耶馬サイクリングロードは耶馬渓鉄道廃線後を利用したサイクリングコース(全長約 36km)で、本耶馬渓から山国までの約22kmが自転車専用道路になっています。参加者は貸し切りの バスに乗り、サイクリングコースの中間地点にある耶馬渓サイクリングターミナルまで移動しま す。このターミナルには約300台のレンタサイクル(大人用、子ども用、二人乗りタンデム車、電 動アシストなど) が用意され、家族でレンタルして出発します。特に紅葉の季節は、御霊もみじを 見ながら自転車を走らせる爽快感は格別です。



耶馬渓の紅葉の中、快適なサイクリングコース



さいきおおにゅうじま 佐伯大入島一周コース(佐伯市)

豊後水道に面した佐伯湾に浮かぶ大入島へ渡り、島内を一周(約17km)するコースです。参加者は貸し切りバスでJR佐伯駅まで行き、そこで予約したレンタサイクルを受け取ります。佐伯市観光協会に協力を得て、レンタサイクルの台数を確保しました。佐伯港からレンタサイクルと一緒にフェリーに乗り込み、大入島に渡ります。海の景色を眺めながら海岸線を走るサイクリングは、潮風に心を洗われるような気持ちのよさです。



大入島へはフェリーで渡ります(片道約7分)



自転車をフェリーに乗せて大入島へいざ出発!



佐伯市の歴史散策コースも好評でした さぁ! 出かけよう!



佐伯市内を流れる番匠川には野鳥がたくさんいます

令和6年(2024)度は国東半島の自然を満喫するファミリーポタリングを計画したいと考えています。将来的にはイベントだけでなくサークルとしても定着させる予定です。



ファミリーポタリングの効果と直面する課題

ノウハウの蓄積と費用負担

滝尾百穴クラブではファミリーポタリングのイベントを実施することにより、多くの効果をあ げるとともに、今後の課題も見つけることができました。

ファミリーポタリングの効果

- ①ファミリーポタリングのイベントを継続的に実施するための人材とノウハウの蓄積ができました。
- ②地元ケーブルテレビ「大分ケーブルテレコム」の番組『友チャリ』で取り上げられたことにより、 事務局に多数の問い合わせが寄せられました。
- ③イベントを実施することにより、クラブ内の横のつながりや会員とのふれあいが増えました。
- ④県内の市町村と連携を図り、自然や観光地を巡ることにより、県内の地域振興に貢献しました。

ファミリーポタリングの課題

- ①日ごろからサイクリングをする素地がない参加者が多いので、サイクリング人口をもっと増や す努力が必要です。
- ②現地までの移動手段としてバスを借り上げて行くため、クラブの負担が大きくなります。
- ③観光地やサイクリングターミナルは利用する自転車の種類や台数が足りなくなり、持参するケー スが時々起こります。特に小学生の自転車を確保するのにひと苦労の状況です。
- ④市町村により自転車のレンタル料に差があり、当クラブの負担が多くなる場合もあります。

NPO法人滝尾百穴クラブ理事兼事務局長 田島 薫

クラブプロフィール

設立年月日 平成26(2014)年10月22日(平成26年10月22日法人登記)

所在地 大分県大分市

会員数:230名(令和6年2月現在)、予算規模:513万円(令和5年度) 運営

①すべての教室を地元の指導者に依頼し、立ち上げました。 特徴

②当初より会費を有料として年会費と月謝制度としました。

③会費を年4回徴収とし、子どもの会費は銀行振込としました。

〒870-0954 住所:大分県大分市下郡中央二丁目8番47号 連絡先

TEL:097-578-6685 FAX:097-578-6683

HP:https://npo-takio.jimdofree.com/ E-mail:takispo100@gmail.com



特別企画

★クラブ間交流を行っているクラブ★

NPO法人 しんじ湖スポーツクラブ

島根県松江市

総合型クラブがその地域に適合し定着・浸透するためには、総合型クラブ単体の取り組みだけでなく、 近隣で活動している他団体と相互扶助の関係を築くことが必要となります。

そこで今回は、クラブ間交流を行っているクラブについて紹介します。

クラブ概要

地域住民主導で、子どもから高齢者までのニーズに合った企画を開催

宍道町は、平成12(2000)年に文部科学省の「総合型地域スポーツクラブ」地域指定を受け、「参加 型 |、「動員型 | の行政主導から、住民みずからが組織し運営する住民主導による健康な町づくりを めざして取り組みを開始しました。そして、地域の子どもから高齢者まで「いつでも・どこでも・気 軽にスポーツを楽しめる環境づくり」を目的に「スポーツ少年団」を核として、平成14(2002)年3月 21日に任意団体である「宍道スポーツクラブ」を設立しました。

その後、市町村合併や指定管理者制度導入などクラブを取り巻くさまざまな社会情勢の変化に 対応していくため、平成18(2006)年に法人格を取得しました。名前も新たに「NPO法人しんじ湖 スポーツクラブ とし、地域住民で構成した運営部会による住民主導のクラブ運営をめざしました。

そして、平成19(2007)年度から町内の3つのスポーツ施設の指定管理者となり活動拠点を確保 し、現在、地域住民で構成する4つの部会事業をクラブ運営の柱とし、子どもから高齢者までニー ズに応じた教室やイベントの開催、さまざまな団体と連携をとった高齢者健康福祉事業や地域活 性化事業、行政から委託された子ども体力向上支援事業などを充実させ、たくさんの人の支援を 受けながらクラブの活動が少しずつ地域に浸透しています。また、地域内外からの講師派遣依頼 や事業委託依頼も増え、他クラブと交流を図りお互いの地域で事業やイベントを開催することで、 クラブの認知度向上や事業発展につながっています。何より、他クラブとの交流はクラブ運営を していく励みとなり、「可能性を追求」しながら活動を広げることができています。



[会員数]

608名

[定期教室/24教室]

- ・子ども(運動遊び、ダンス、器械体操)
- ・親子(こんぺいとうクラブ)
- ・大人~高齢者(ヨガ、3B体操、ピラティス、動作術、レクダンス、太極拳、介護・認知症・転倒 予防教室、トレーニング、楽健法)など

[イベント]

・歴史ウオーキング ・あそび塾 ・クラブフェスタ ・各部会事業

[子ども体力向上支援]

- ・わんぱくキッズ広場(幼保園へ運動指導、小学校2校への体育指導)
- ・ジュニアチーム活動支援(スポーツ少年団他地域内ジュニアチーム10チーム)

[地域貢献事業]

- ・キャンドルナイト実行委員会事業
- ・ちょっこし動いて楽しま会
- ·地区集会所講師派遣事業

[正会員・職員・ボランティア]

- ・理事7名、幹事2名、部会委員27名、職員10名(正規5名、パート5名)
- ・ボランティア年間延べ約170名

[部会事業]

- ・事業部:地域住民の子どもから高齢者まで誰もが楽しく体を動かすことができるイベントや野 外スポーツ・健康イベント等を企画実施。
- ・健康福祉部: 地元の診療所医師や保健師、各種目の講師が地域住民の健康増進のための健康教室やイベント、講座など健康事業を企画実施。
- ・ジュニア部: クラブに登録しているジュニアチーム10チームの代表が子どもたちのよりよいスポーツ環境を整えるために集結し、交流を図ったり各チームの日常における活動の課題を共有し、解決に向けた事業を行う。
- ・施設管理部:利用者が安全かつ快適に活動できる管理を行い、老朽化に対応できる施設管理を めざす。収益、施設稼働率を上げるためにイベント等を企画開催し、施設を有効 活用する。



県内外のクラブとの連携で事業を拡大

不安を抱えながらのスタート さまざまなクラブとの交流で課題解決の糸口をつかむ

クラブが設立したころは、総合型クラブのネットワークも少なく相談するところもわからず、 運営に日々不安を抱えていました。県からの情報を頼りに研修会に参加し、やがて県外に総合型 クラブの組織があることを知りました。そこでさまざまなクラブと交流を深めることで、悩みを 解決する糸口や新規事業のアイデアとなるヒント、明日への頑張る力をいただきました。その後、 先進地への視察や交流を重ね、全国に「仲間」ができました。そして、ついに県内に総合型クラブ のネットワーク[島根県総合型クラブ連絡協議会]ができ、ようやく身近に「仲間」ができたことに 大きな喜びを感じました。毎回、情報交換や学びの場で交流を深めながらクラブ運営への力をい ただき、この連絡協議会への参加をきっかけに県内の他クラブとの連携事業が始まりました。

講師派遣やイベントなどさまざまなスタイルで交流を実現

[連携① 健康講座や教室での講師派遣]

他クラブと初めて連携を行ったのが平成18(2006)年の健康講座の開催です。

自分に合った健康法を見つけ、日常的な運動実施を促すことを目的に開催した「スマイル健康講 座」で、日ごろから交流のある近隣クラブ(2クラブ)のクラブマネジャーに講師として指導をして いただきました。毎回、参加者に対し、クラブが総合型クラブであること、そして身近なところ で同じようなクラブが活躍していることを説明しながら、数年間講座を実施してきました。とて も魅力的な講座でリピーターやファンも多く、地域内外から多数の方に参加していただいたこと からクラブの認知度向上や新規会員の獲得にもつながりました。また、講師のクラブマネジャーは、 総合型クラブを運営していく同じ志を持った「仲間」であり信頼できる「仲間」であることから苦労 したことは一度もありませんでした。

近年では、このつながりから逆に指導者派遣の要請を受け、クラブインストラクターを派遣す るなど事業を拡大することができています。

[連携② 交流イベント/総合型クラブ交流フェスタ参加]

平成28(2016)年度NPO法人SPORTIVOひがしいずもの金山マネジャーからの提案で、ダンス による「総合型クラブ交流フェスタ」に参加しました。これをきっかけに、以後3年間、島根県エア ロビック連盟主催、島根県総合型地域スポーツクラブ共催「はっちゃけ総合型クラブ交流フェスタ」 を県内クラブと共に企画・運営しました。持ち回りで主担当クラブが会場を提供し、参加クラブで 役割分担を決め事業を実施します。

平成30(2018)年度には、中国ブロッククラブネットワークアクションの企画のため、県内クラ ブの女性有志が集まり、何か楽しいことをしよう♪と「OCG」(おもっしぇくらぶガールズ)が立ち 上がったことも、よりクラブの関係性を密にし、イベントは連携事業へと発展していきました。 年に一度、他クラブの地域を訪れその土地の人々と交流を深めること、力を合わせやり遂げた達 成感や参加者の笑顔に喜びを共に感じたこと、同じ総合型クラブだからこそ感じられたのだと思 います。





県内総合型クラブの交流イベント 「Let's go はっちゃけ!交流フェスタ」

[連携③ 交流イベント/バブルサッカー]

令和4(2022)年度、島根県スポーツ協会の交流イベント助成事業をきっかけに、県内総合型3クラブ(NPO法人斐川スポーツ協会ひかわスポーツ夢クラブ、NPO法人ボアソルテスポーツクラブ、NPO法人しんじ湖スポーツクラブ)が協力し、島根県では体験する機会が少ない「バブルサッカー」を実施しました。オンラインで何度か打ち合せを行い、当日までの準備・当日の進行など役割分担をして、お互いに情報を共有しながら事業を進めていきました。

当日も、それぞれのクラブが各持ち場の準備・進行を務め、スムーズにイベントを開催することができました。特に、ボアソルテスポーツクラブの中学生スタッフがイベントの進行をしたことがこのイベントの特徴だと思います。中学生が各チームに1人ずつリーダーとして入りサポートしたことで、緊張気味だった小学生の参加者も会話が弾み、会場全体が楽しい雰囲気となり、参加者は満足した様子でした。



バブルサッカーに参加した小学生は「逆さまになるところがおもしろかった」、「転んでも痛くないから楽しかった」など、ふだん体験できないスポーツができたことに大満足! 大人の参加者からは「運動量が多くて楽しかった」、「激しくぶつかっても痛くないから、とてもストレス解消になった」など、日ごろの運動不足やストレスの解消にもつながったようです!



会場入り口に総合型クラブと各クラブをPRするコーナーを設けて、認知度向上や各クラブの事業への参加を促しました。チラシを手に取って帰る人や入会の相談をする人など、クラブに興味関心をもっていただくことができ、クラブ活動のPRの場としても効果がありました



[連携4 交流イベント/動作術体験]

令和5(2023)年に行ったイベント。前の年に声をかけていただき、交流事業を行ったNPO法人斐川スポーツ協会ひかわスポーツ夢クラブへ今度はこちらから声をかけさせていただき、交流イベント助成事業で「動作術体験」を共催しました。感染症の影響により子どもの体力低下に伴う「ケガの多発」、大人や高齢者の「体力及び筋力の低下」、「ストレス過多」を改善するために、全国的に活動を展開されている先生をお呼びし、伝統的な武術の動きに解剖学の知見を加え、筋力に頼らずケガをしにくい体の動かし方を学ぶ場を夢クラブと共に提供しました。当日まで打ち合わせを重ね、一人でも多くの人に参加していただけるようそれぞれが役割を果たし準備を進めたことで、当日は子どもから高齢者まで約100名の方にご参加いただき、真剣かつ楽しく学ぶ時間となりました。

この事業を通してクラブ間の交流を深められたこと、新規会員の獲得につながったこと、そして何より参加された方が学んだことを家でも継続したり、学校や園でも取り組んでもらえていることがこの事業の成果だと思われます。







隣町のひかわスポーツ夢クラブとの共催による「動作術体験」 互いの地域を超えてたくさんの方にご参加いただきました。共催したことにより遠方から 素晴らしい講師を招くことができ、参加者にも喜んでいただけました

[連携5 イベント協力]

しんじ湖スポーツクラブはスポーツだけでなく地域活性化を目的に町内のさまざまな団体と連携をとり実行委員会を立ち上げ、「キャンドルナイト」を開催しています。このイベントは、岡山のクラブ(旧柵原星の里スポレク倶楽部:現美咲町ももたろうクラブ)にご指導ご協力をいただき平成26(2014)年から開催しており、約100名を超える地域住民と東日本大震災の復興を願い、地域のさまざまな場所で1万個のキャンドルに明かりを灯し、被災地へ希望の光を送ろうと一致団結して取り組んでいます。町内外の個人や団体・企業に多数の支援をいただき関わる人が思いを一つにしてさまざまなキャンドルアートを作成し、来場してくださった方々と希望の光を灯します。そのイベントで県内の総合型クラブに協力を呼びかけ、複数のクラブに力をいただいたこともありました。コロナ禍で中止にした年もありましたが、人と人とのつながりを深めるためにも、今後また思いを一つに開催していくことを検討しています。



活動の幅も広がり会員の獲得にも 効果が生まれたクラブ間交流

地域の枠を超えた会員同士の交流も新たな流れを呼び込む

さまざまな事業を通して他クラブとの交流を深めることは、単に悩みを解決し不安を解消する だけでなく、互いに力を出し合うことでクラブの発展につながるということを学びました。

クラブ運営のいちばん近くにいて力を貸してくださる方は地域の方々です。他クラブとの交流 を深めることは、互いにその地域の人を巻き込み活動するため、よりたくさんの方にクラブの存 在を知っていただく場となり、事業を多く行うことで認知度向上につながります。また、活動の 幅も広がり財源確保や会員の獲得にも効果があると思います。

事業後に新規会員となり運動を継続する方や、地域の中で「総合型クラブ」が全国組織であると いうことを理解してくださる方も少しずつ増えてきています。そして、連携した隣町の夢クラブ とのつながりから、当クラブのイベントに夢クラブの会員が参加するなど地域の枠を超えた会員 同士の交流もでき、クラブに新たな流れを取り込むチャンスであると考えています。

クラブの活動が地域に浸透し地域と共に歩んでいくためにも、クラブ間の交流は必要であり、 今後もさまざまなクラブとの交流が深められたらと思っています。

さまざまな組織と連携しながら 持続可能なクラブ運営をめざして

役割分担を明確に、一致団結でクラブの活動を盛り上げる

物価高騰や自然災害など不安定な社会情勢のなか、地域ではクラブを取り巻く環境が目まぐる しく変化しています。そういった変化への対応とクラブの発展に力を注ぎながら、持続可能なク ラブ運営をめざしていきます。

[今後の目標]

- ・拠点である体育館の老朽化が進んでいるなか、利用者の安全を第一に確保し活動を継続するため にも、施設の改修等に関して市行政からの理解を得られるよう要望し続けること
- ・感染症や物価高騰の影響により減少した自主財源を回復させるために、会費や参加料の値上げ、 魅力あるプログラムの提供、新規会員の獲得に向けた事業を展開すること
- ・地域から信頼され頼られる存在になりつつあることから、行政より新たな協働事業の依頼や施設 の管理要請などの話を持ちかけられているため、事務局員の増員と事務処理を効率化させること
- ・クラブを運営する4つの部会組織がクラブ運営に向けて一致団結する仕組みづくりを行うこと
- ・会員とクラブ理念の共有を図り、クラブの基盤を強化すること
- ・高齢者が多い町であるため福祉活動にも力を注ぐこと
- ・地域のさまざまな団体や他クラブとの連携を強化していくこと など



やりたいことは山のようにありますが、目的を達成させるために思いを共有し、役割分担を明 確にしながら一致団結で活動を継続していきたいと考えています。

> NPO法人しんじ湖スポーツクラブクラブマネジャー 金山和美、狩野良太 アドバイザー 持田比佐子

設立年月日 平成14(2002)年3月21日(平成18年7月3日 法人登記)

島根県松江市 所在地

加盟チーム ジュニア部チーム(スポ少含む)10チーム

一般チーム(社会人チーム)13チーム

特徴 ・地域住民による4つの部会がクラブ運営

・年齢やニーズに応じたさまざまな教室やイベントを開催

・地域ボランティア「宍道おやじクラブ」、「宍道歴史案内人」、「グリーンサポーターズ」

・地域と連携した事業の実施

〒699-0406 住所:島根県松江市宍道町佐々布204-4 連絡先

TEL:0852-66-8686 FAX:0852-66-1414

HP: http://shinjiko-sportsclub.com/

E-mail: sports-shinji.no1@violin.ocn.ne.jp



★本記事の読み上げ動画を作成しました!

忙しく記事を読む時間がない方でも、耳を傾けていただくだけで内容を把握することができるよう、本記事を読み上げた動画を作成しました。移動時間やスキマ時間などにぜひご活用ください! 動画はこちら➡https://youtu.be/Qbc_kgA4S9U







連載

★学校運動部活動と連携するクラブ★

NPO法人 おぐにスポーツクラブYui

山形県西置賜郡小国町

学校運動部活動を巡っては、少子化による生徒数の減少、それに伴う教員数の減少、専門的指導力を持つ教員の不足等により、生徒のニーズに応じた部活動自体が成り立たなくなる現状があります。

文部科学省では、令和5 (2023) 年から令和7 (2025) 年までを「改革推進期間」と位置づけ、休日の部活動について、合同部活動や部活動指導員の配置により地域と連携することや、学校外の多様な地域団体が主体となる地域クラブ活動へ移行することについて、地域の実情等に応じて可能な限り早期の実現をめざすよう各自治体に求めており、総合型クラブにおいても学校運動部活動との連携が期待されています。

そこで今回は、学校運動部活動と連携するクラブの取り組みを紹介します。

1

クラブ概要

理念は「誰もが、いつでも、スポーツで元気に」

山形県西置賜郡小国町は、山形県の西南端、新潟県との県境で両県の県庁所在地である山形市と新潟市のほぼ中間地点に位置しています。また、磐梯朝日国立公園に属する朝日連峰(北)、飯豊連峰(南)という雄大な山並みに囲まれており、原始景観を残すブナの森をはじめ、町全体を覆い尽くすように落葉広葉樹林が広がる自然豊かな人口6.698人(令和6年2月現在)の町です。

当クラブの設立は平成22(2010)年2月、NPO法人登記は平成26(2014)年9月で、現在の会員数は 幼児から90歳代までの400名、職員数は常勤スタッフ6名、アルバイト2名、夜警業務員2名の計10名 で構成されているクラブです。「誰もが、いつでも、スポーツで元気に」を理念に掲げ、エアロビクス、ピラティス、ラージボール卓球、ソフトバレーボール等の定期教室数が11教室、行政からの委託事業が4事業、小国町民総合体育館および小国町多目的屋内運動場の指定管理業務を受託しています。

2 町からの委託を受け6つの休日部活動を受け入れ

少子高齢化に伴う多くの課題を抱える現状

急激な少子高齢化が進行している小国町では、平成18(2006)年度は1万人だった人口が、令和4(2022)年度には7,000人を割るなど急激に人口減少が進んでいます。中学生の生徒数も平成18(2006)年度は240名だったのが令和4(2022)年度には170名と減少し、既存の部活動の継続が困難な状況になり、部活動の再編成などさまざまな課題が生じています。



国では、文部科学省から学校の働き方改革等の方針が示され、令和3(2021)年度に町から総合型地域スポーツクラブ「特定非営利活動法人おぐにスポーツクラブYui」に休日部活動の地域連携および地域移行について実践研究の打診がありました。当クラブでは、平成30(2018)年度より教育委員会から部活動指導員の委嘱を受けてきた経緯もあり、このような関係で、令和4(2022)年度には、町から「休日における部活動地域移行実践研究」部活動指導業務の委託を受けて1年間実施してきました。

初年度は、当クラブのジュニアクラブの活動として野球部、女子バレーボール部、陸上部の3部が先行実施しましたが、令和5(2023)年度も同様に業務委託を受け、令和4(2022)年度実施の3部にソフトテニス部、卓球部、吹奏楽部の3部が加わり、現在では計6部が土日のいずれか1回(月に2~4回程度)当クラブのジュニアクラブとして活動しています。



野球クラブは、少子化により町外の中学校 と合同で練習を行いました



卓球クラブでは、地域の指導者が技術面を わかりやすく指導しています

また、休日の活動には顧問(教員)は参加せず、当クラブ所属の指導者のみで活動していますが、 当クラブ所属の指導者と顧問が活動内容を確認するために、週1回定期的に打ち合わせを行ってい ます。

指導者は、町のスポーツ協会と連携し、各競技団体から推薦を受けた者(中学校の部外コーチおよびスポーツ少年団の指導者等)が当クラブの指導者として登録しています。また、当クラブのコーディネーターが学校との連絡業務を行うことで、指導者が指導に専念できるように配慮しています。コーディネーターは、学校との活動方針の確認や、月1回の定期的な活動計画・実績報告等の連絡業務を担っています。コーディネーターの賃金は、部活動指導業務に関わる分は委託料から支払い、その他は当クラブの経費から支払っています。そして、活動に必要な経費とされる指導謝金は、月ごとに各指導者の口座へ振り込み、各部の必要な消耗品、保険料、手数料等も当クラブが委託料の中から支出しています。なお、部員に対する会費(部費)等は検討していますが、現時点では設定していません。

活動場所は、事前に関係機関の調整会議で調整を図り、当クラブが指定管理する町民総合体育館、 多目的屋内運動場等の体育施設と学校の一部を社会体育開放施設として利用し、活動しています。 施設の鍵は、当クラブ事務所で保管し管理しています。

当クラブは、地域の子どもたちが抱く夢を応援するため、人と人を結ぶ(Yui)懸け橋であることが設立の理念でもあります。関係団体と課題を共有して、ジュニアのスポーツ環境および放課後環境の充実に努めています。



ソフトテニスクラブでは、チームに分かれ 地域指導者が丁寧に技術指導を行っています



会員数が少ない女子バレーボールクラブは、地域 の指導者がマンツーマンでコーチしています

3 継続可能な休日部活動の仕組みづくりをめざして

当クラブは、人と人を結ぶツールとしての役割を大切にして事業を継続しています。休日のジュニアクラブは任意加入ですが、学校部活動に加入している全生徒がそれぞれのクラブで活動しています。

指導者は、競技技術の指導を通して生徒たちの心と体の成長に大きく関わっています。活動指針として学校部活動ガイドラインを遵守していますが、楽しいだけの活動では限界があり、時には試合で勝つことも重要でそこから学ぶこともたくさんあります。今年度までの休日クラブ活動は学校部活動とリンクし競技技術の向上を主に指導してきましたが、当クラブの理念は、豊かなスポーツライフを築くことです。これまでの取り組みと当クラブの考え方を融合させていくことが大切であると考えます。多様な活動が可能な地域クラブは、学校部活動とは違う価値観での活動もできるのではないかと模索していますが、現段階では周辺環境が整っていないので時期尚早です。

これからは、指導者の資質向上を図るとともに、当クラブの目的を各指導者に共有し、それぞれの指導方法を尊重するなど指導者間のネットワークづくりと、ジュニアクラブ活動に参加している生徒の達成感を醸成することをめざします。そして、当クラブは、クラブ指導者とジュニアクラブ会員、保護者、学校、教育委員会との懸け橋となり、休日部活動の地域連携・地域クラブ活動移行を継続できる仕組みづくりの核となるため、優秀な人財・場所・財源の確保に努めます。

関係者へのアンケートによる現状の把握

今年度の活動に関わった生徒を対象にアンケートをとりました。質問内容の「生徒の休日部活動についてどのように考えますか」という質問に対して、「毎週あったほうが良い」が63%、「時々あったほうが良い」が14%、「ないほうが良い」が23%という結果でした。

保護者に、部活動の必要性・意義について質問したところ94%が「必要である」と回答し、活動費用の受益者負担は61%が「仕方ない」、許容額は「月額千円程度」が61%となり、金銭面の負担増には理解不足な状況でありました。そのほか、顧問がつかない休日部活動について「あまり不安を感じない」が88%となり、地域指導者への高い信頼感がありました。



教員には、地域指導者が関わることについて質問したところ、「不都合がなかった」が100%、「地域移行の組織体制への不安がなかった」が100%でした。一方、地域指導者に部活動の地域移行について質問したところ、「賛成」および「わからない」が76%、「指導者があまり足りていない」が61%という結果でした。

これらの結果を参考にして、今後の学校部活動と休日地域クラブ活動の関係を整理していきます。



指導者の熱心なアドバイスにより、 陸上クラブの練習にも力が入っています



体育館内で基礎体力の向上に励む 陸上クラブの生徒たち

4

未来を見据えてクラブの模索は続く

まずは世代を超えた人々の交流の場づくりを

当クラブは、それぞれの目的に応じて、「いつでも、だれでも、どこでも、いつまでも」スポーツを楽しむことができるステージづくりをさらに充実させて体と心の健康づくりを推進します。

当クラブの登録指導者は、主に休日ジュニアクラブの指導者として活動しています。部活動と休日ジュニアクラブの関係は、5年、10年先を見据え、関係する教育委員会、学校、保護者、スポーツ協会、スポーツ少年団等との連携強化および相互理解を深めることが重要です。

2年間の実践・研究は、スポーツクラブの将来像を考える貴重な事業でもありました。5年、10年 先を見据えて、学校が担ってきた中学生のスポーツ活動をどのように考え、どのように地域クラ ブが関われば豊かなスポーツライフに結びつけることができるのかを関係団体と熟議を深めるこ とによって、それぞれのモチベーションアップにつなげていきたいと考えます。

地域スポーツクラブには、組織的な脆弱さと財源の問題もありますが、さまざまな事業に積極的に関わり、豊かなスポーツライフとは何なのかの方向を見いだすチャンスとしていきます。

令和6(2024)年度、当クラブは自主事業として中学生「放課後エンジョイクラブ」の立ち上げを計画しています。活動内容は、週3回、学校部活動にない複合種目(スポーツ・文化)活動を予定し、指導者は、地域の達人にお願いして、世代を超えた地域の人々との交流を深め、学校とは違う放課後の居場所を提供していきたいと考えています。活動経費は受益者負担を想定していますが、多くの方々に理解していただきながら「総合型地域スポーツクラブ」として何ができるのか、これからも模索が続きます。

NPO法人おぐにスポーツクラブYui 理事長 舟山孝夫



クラブプロフィール

設立年月日 平成22(2010)年2月21日(平成26年9月19日 法人登記)

所在地 山形県西置賜郡小国町

運営 会員数:400名(令和6年3月現在)、予算規模33,370,178円(令和5年度)

特徴 特定非営利活動法人おぐにスポーツクラブYuiのスローガンは誰もが『Y・ゆかいに! u・

運動で! i・いきいきライフ! 『です。

町民の皆が、誕生してから生涯を終えるまで仲間とともに元気に過ごしたいという願いからこのクラブが生まれました。その願いを今も大切に皆から愛されるクラブづくりをめざして日々活動しています。会員は幼児から90歳代までと幅広い年齢層で、種目も多種目型、自分がやりたいものを選んで参加することができます。教室では笑

い声が響き、参加している方々に、私たち職員も元気をもらっています。

連絡先 〒999-1352 住所:山形県西置賜郡小国町大字岩井沢683番地の1

TEL:0238-62-5808 FAX:0238-62-4974

HP:http://www.oguni-yui.com

E-mail: oguni-yui@rouge.plala.or.jp

JSPO(日本スポーツ協会)webサイト内に 運動部活動改革 特集ページを公開中!

運動部活動改革の経緯やJSPOの基本的考え方、参考情報をはじめ スポーツ庁や競技団体、自治体等の取り組み事例を掲載

URL: https://www.japan-sports.or.jp/tabid1377.html





助成金情報

ヨネックススポーツ振興財団2024年度助成金

【実施団体】(公財) ヨネックススポーツ振興財団

ジュニアスポーツ振興助成事業(全スポーツ競技)

すべてのスポーツ競技において、ジュニアスポーツの振興に関する事業を積極的に行い、奨励し、 または自ら行い、かつ当該団体としての活動を実施している団体を対象とします。

また、中学校部活動の地域移行に関し、中学校等と連携を図り推進している団体を対象とします。

【申込期間】

後期対象期間:2024年10月1日~2025年3月31日の事業

Web申請開始:2024年4月1日10:00 一次締め切り:2024年5月15日17:00 最終締め切り:2024年6月20日17:00 審査結果通知:2024年9月上旬(予定)

2023年度よりWeb申請に変更となりました。 詳しくは、以下のホームページをご確認ください。

https://www.yonexsports-f.or.jp/grant_application/



お知らせ

日本スポーツ協会情報

●「『部活動の地域連携・地域クラブ活動移行』取り組みのススメ」(動画)を公開

部活動の地域連携・地域クラブ活動移行に向けて取り組みを進めていく上で大切となる3つのス テップを紹介した動画を、当協会HPにて公開いたしました。

本動画が、部活動地域連携・地域クラブ活動移行における課題解決や円滑な取り組み進行の一助 になれば幸いです。ぜひご視聴ください。

動画の視聴はこちらから

→https://www.youtube.com/watch?v=nb67nWhM3cg

<動画構成>

Step1: 自治体や学校とつながりを持つ(00:31~)

Step2:連携体制を構築する(04:35~) Step3:活動体制を整える(08:01~)

その他の学校部活動地域連携・地域クラブ活動移行に向けた動画はこちらから

→https://www.japan-sports.or.jp/local/tabid1401.html

\総合型地域スポーツクラブ向け/

『部活動の地域連携・地域クラブ活動移行』 取り組みのススメ





●アンチ・ドーピングについて

当協会ではスポーツの価値を守るための活動の一つとして、アンチ・ドーピング教育に取り組ん でいます。

この度、施設で掲示して使えるように壁新聞を作成いたしました。PDFを無料でダウンロード できますのでぜひご活用ください。アンチ・ドーピング検査の対象となる方だけではなく、スポー ツに関わるすべての皆様に「アンチ・ドーピング」を通してスポーツの価値を考えるきっかけとして いただけますと幸いです。

スポーツの価値を守るための「アンチ・ドーピング」

ISPM スポーツ医・科学info

2024 2月19日発行

=ツの価値を守るための「アンチ・ドード

スポーツの本芷のひとつに「ドーピング」というのがあるよ。たとえば、薬などを使って他の人よりも強くなること。でも、 薬などを使って勝とうとするのってずるいよね。スポーツはみんなが同じルールで公平に競うものだから。

「ドーピング」をすると、勝負がフェアじゃなくなるんだ。ルールを守らないと、スポーツの楽しさや価値がなくなっちゃ う。みんながフェアに遊ぶからこそ、スポーツは素晴らしいんだよ。

「アンチ・ドーピング」とは、ドーピングをしないで、みんなが正直でクリーンにスポーツを楽しむこと。 みんなでルールを守ってスポーツをもっと楽しく、素晴らしいものにしよう!

スポーツ庁長官 室伏 広治さん



スポーツはなぜ心をひきつけるのでしょうか?自分の能力や奇能性を信 じて、首らそれを引き出すことにスポーツのおもしろさがあると私は考え ています。また、みんなが筒じルールを守り、一生態命に競い合うことが、 スポーツを見る人に感動を与えるのではないでしょうか。

スポーツのルールの中で、薬や木正な行いによって勝負すること(ドー ピング)は、フェアプレーに受することから禁じられています。また、本 . 来は病気やけがを治すための薬が違う首的で使われるため、健康に悪影響 をもたらす危険もあります。スポーツ庁では、ドーピングのないクリーン なスポーツを直指して、アスリートやアスリートを支えるコーチ・医師へ の教育など、さまざまな活動を行っています。

スポーツは、「自分はできるんだ!」という自己肯定感を高めてくれます。 スポーツで不正を行うことは自己否定の表れだと私は考えています。皆さ んには、ルールを守りながらスポーツを築しむことで、首券の能力や可能 性を広げてほしいと思います。

際上・白本選手機男子ハンマー投げで1995年から2014年まで20連載。 2004年、アテネ五義男子ハンマー投げで登メダル、2012年ロンドン五義では過メダルを獲得。 2004年、アテネ五輪男子ハンマー扱けで金 2003年に投げた84m86は今なお白本記録。

スポーツ健康科学部 准教授 室伏 由佳さん



スポーツって楽しいですよね。仲間と一緒にスポーツをするのは、とっ てもワクワクします。でも、スポーツにはみんなが公平で安全に楽しむた めの大切なルールがあります。

 例えば、みんなで競争しているとき、隣の人がこっそりスタートライン を越えてスタートしたらどう思いますか?「ずるいな」と思いますよね。 これと同じで、スポーツには「ドーピング」というルール違反があります。 業などをこっそり使って、自分だけ良い蔵績を残そうとすることですが、 みんなが正々望々とプレーするためにドーピングは絶対にしてはいけない ことです。もちろん、病気ではないのに薬を使うから、自分の健康を崩し てしまうこともあります。

スポーツは、ルールを守ってこそ、みんなで楽しめるものです。みんな もルールを守って、安全に楽しくスポーツをしましょう!

陸上・日本選手権において女子円盤投げで12億、女子ハンマー投げで5個機器。 2004年、アテネ五輪女子ハンマー投げる本代表。世界選手権2005年天会(女子円盤投げ)、 2004年、アテネ五輪女子ハンマー投げ自 2007年大会(女子ハンマー投げ)に出場。

フェア(公平)でないと感じるものはどれ?



家で毎日

たくさん 朝ごはん 食べてきたぞ

よーし、 途中で こっそり ばてないように ちょっとだけ スポーツドリンクを 前に出ちゃおう 飲んできたぞ

抜かれそうに 定の速い人の なったら少し 走り方を真似して 邪魔してやろう 走るんだ

スポーツくじ winner 🚥 Big







JSPO(公益財団法人日本スポーツ協会) スポーツ科学研究室 https://www.iaran.com/

JSPOホームページで本ポスターのPDFを公開しておりますので、ダウンロードのうえご活用ください。





▶よくあるご質問はこちら 「アンチ・ドーピングQ&A」





▶選手が安心して使用できる医薬品リストはこちら 「アンチ・ドーピング使用可能薬リスト2024年版」





※毎年更新されますのでご注意ください